

令和 2 年 6 月 28 日現在

機関番号：33704

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02088

研究課題名（和文）特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援に関する研究

研究課題名（英文）Essential considerations on the support necessary for special education school excursions

研究代表者

松本 和久（MATSUMOTO, Kazuhisa）

岐阜聖徳学園大学・教育学部・教授

研究者番号：40635348

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：2017年2月、岐阜県の特別支援学校21校で修学旅行を担当する教師に対し質問紙調査を実施し、その結果をもとに特別支援学校の修学旅行ならではの困難さとその対応例を、(1)移動、(2)宿泊、(3)食事、(4)買い物、(5)見学・体験の場面別に整理した『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント（試案）』を作成した。

さらに、2019年2月～3月、岐阜県の特別支援学校のうち障害別に抽出した7校へ依頼し、小学部・中学部・高等部の修学旅行担当者3名、合計21名を対象に聞き取り調査を実施した。これらの結果をまとめた研究成果報告書及び特別支援学校の修学旅行に必要な支援や配慮についてのリーフレットを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

特別支援学校では、各校の児童生徒に合わせて様々な配慮や支援がきめ細くなされている。しかし、修学旅行においては学校や教師では対応しきれない困難さが多い。最終的には児童生徒一人一人に合った対応が必要になるが、障害種や場面毎の基本的な対応を旅行業者・関係者の方に理解してもらえるようになることが望まれる。本研究の報告書や特別支援学校の修学旅行に必要な支援や配慮についてのリーフレットが、その一助となると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In February 2017, a questionnaire survey was conducted for teachers in charge of school excursions at 21 special needs schools in Gifu Prefecture, and based on the results, the difficulties and corresponding examples of special school excursions, (1) Moving, (2) Accommodation, (3) Meal, (4) Shopping, (5) Visit/Experience "Points when planning a school excursion at a special needs school" organized by scene of visit/experience did. In addition, from February to March 2019, we requested 7 schools selected by disability among special support schools in Gifu Prefecture to target a total of 21 people, including 3 school excursions in elementary school, junior high school, and high school. Conducted an interview survey. A research report summarizing these results and a leaflet on the support and consideration necessary for school excursions at special needs schools were prepared.

研究分野：特別支援教育

キーワード：特別支援学校 修学旅行 配慮や支援 トラブル 困難さ

様式 C-19, F-19-1, Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「ユニバーサルツーリズム」は、全ての人を楽しめるように創られた旅行であり、高齢や障害の有無にかかわらず誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指している(石原, 2015)。その促進のために観光庁による「ユニバーサルツーリズム促進事業」や日本バリアフリー観光推進機構による「パーソナルバリアフリー基準」に基づく「全国バリアフリー旅行情報」の発信、全国各地のバリアフリー旅行相談センターネットワークの充実などが図られている。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中から障害のある人が日本を訪れることになる。開催地の東京はもとより全国各地で障害のある人の受入態勢の整備が望まれる。また、2016年4月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行され、障害のある人に対する「合理的配慮」の提供が義務付けられる。障害のある人が「行きたい時に、行きたいところへ行き、やりたいことをする」ための対応は重要かつ必須である。

このような社会環境の中、障害のある人の旅行は「バリアフリー旅行」として必要な配慮や支援が提供されるようになってきている。しかし、これらの大半は車いす使用者など身体障害のある人や高齢者を対象とした「物理的なバリア」を解消した旅行であり、知的障害や発達障害のある人が旅行する際の支援内容や支援方法については、まだまだ研究が未開拓の分野であると言える(松本・山内, 2015)。

ところで、多くの子どもたちが学校生活最大の思い出の一つに挙げるのが修学旅行である。特に特別支援学校に通う障害のある子どもたちにとって、「非日常」である旅行は大変魅力的な行事であろう。通常学級の修学旅行については、毎年、公益財団法人日本修学旅行協会が『教育旅行年報』として、中学校・高等学校の修学旅行についての調査結果をまとめている。また、公益財団法人全国修学旅行研究協会が関東・東海・近畿地区の中学校を対象に実施状況調査を行っている。一方、特別支援学校の修学旅行については、中岡(2011)による「特別支援学校の修学旅行に関する全国調査―高等部調査結果―」が報告されている程度である。2009年に学研の『実践障害児教育』が「もっと楽しく修学旅行」という特集で特別支援学校の実践を紹介し、山内(2009)などが寄稿しているが、支援の内容や方法を検証した研究はほとんど見られない。

2. 研究の目的

上記のような背景を踏まえ、本研究では

(1) 特別支援学校の修学旅行を計画・実施する際の困難さや配慮事項、必要とされる支援について、担当する教師への調査を通して明らかにする。

(2) 調査を通して明らかになった特別支援学校の修学旅行に必要な支援や配慮について、特別支援学校の修学旅行への参画や更なる調査などを通して、その内容や方法の有効性を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 特別支援学校修学旅行の実態調査

2017年2月、岐阜県の特別支援学校21校で修学旅行を担当する小学部・中学部・高等部の教師を対象とした実態調査を実施した。調査内容は日本修学旅行協会(2016)を参考にし、2016年度に実施した修学旅行の概要、活動内容、配慮事項について明らかにした。

(2) 特別支援学校の修学旅行中に起こった予期せぬトラブルとその対応

実態調査の結果をもとに、特別支援学校の修学旅行中に実際に起こったトラブルの内容と、そのトラブルにどのように対応したかを検討した。そして、特別支援学校の修学旅行において予想される困難さとその対応例を、①移動、②宿泊、③食事、④買い物、⑤見学・体験の場面別に整理し、『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント(試案)』を作成した。

(3) 特別支援学校の修学旅行ならではの困難さとその対応

『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント(試案)』の内容を検証するために特別支援学校教師への聞き取り調査を実施した。岐阜県の特別支援学校のうち、障害別に抽出した7校で了解の得られた小学部・中学部・高等部の修学旅行担当者3名、合計21名を対象とした。調査期間は2019年2月から3月で、『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント(試案)』について、2018年度の修学旅行での経験を踏まえた意見を求めた。

これらの結果をまとめた研究成果報告書及び特別支援学校が旅行者・関係者の方へお願いしたい支援や配慮について説明する際に活用できるような、基本的な対応やその情報源となるウェブサイトを紹介したリーフレットを作成した。

4. 研究成果

特別支援学校の修学旅行ならではの困難さ(・)と、実際に行われた対応例(→)、事前の問合せに活用できる参考となるウェブサイトを、(1)移動、(2)宿泊、(3)食事、(4)買い物、(5)見学・体験の場面別にまとめる。

(1) 移動

①特別支援学校ならではの困難さと、実際に行われた対応例

- ・長距離や雨天時、段差など、移動が困難である。(特に、車いすを利用する場合)
→移動距離をできるだけ短くする。また、そのための動線(エレベーターやトイレを含む)を確認しておく。
- ・車いすを利用している。
→リフト付きバスや福祉タクシーを利用する。
→テーマパークのシャトルバスなど、全便がリフト付きではない場合がある。そのため、事前にリフト付きバスの運行状況を確認しておく。
- ・車いすでの乗降に、十分なスペースが必要である。
→車いすでの乗降場所を確認し、必要な乗降方法を手配しておく。
- ・長時間待てなかったり、じっとしていられなかったりする児童生徒がいる。トイレを我慢できない児童生徒がいる。
→バスを利用する場合はこまめに休憩をとり、休憩時間も長めに設定する。
→駅や空港で、待機場所を確保しておく。
→新幹線の多目的室を利用できるように、事前に手続きをしておく。
→航空機を利用する際、最後に乗り、最初に降りられるように手配しておく。

②参考となるウェブサイト

1) 鉄道

- ・JR 東日本『お体の不自由なお客さまへ』 <https://www.jreast.co.jp/equipment/>
- ・JR 東海『お身体の不自由なお客様へ』 <https://railway.jr-central.co.jp/pwd/>
- ・JR 西日本『おからだの不自由なお客様へ』
<https://www.jr-odekake.net/railroad/service/barrierfree/>
- ・東京メトロ『バリアフリー便利帳』
<https://www.tokyo-metro.jp/safety/barrierfree/progress/index.html#anc01>

2) 航空機

- ・JAL『お体の不自由なお客さまへ(お手伝いを希望されるお客さまへのご案内)』
<https://www.jal.co.jp/jalpri/>
- ・ANA『おからだの不自由なお客様へのご案内』
<https://www.ana.co.jp/ja/jp/serviceinfo/share/assist/>

(2) 宿泊

①特別支援学校ならではの困難さと、実際に行われた対応例

- ・車いすを利用している児童生徒がいる。
→車いす対応客室を利用する。
- ・転落防止や車いす移動のためのスペースが必要である。
→宿泊先に依頼して、ベッドの位置を変える。
- ・入浴介助のために、十分なスペースと時間が必要である。
→ユニットバスでなく、浴室に洗い場のある客室を利用する。
→大浴場の貸切利用を、事前に宿泊先に依頼しておく。
- ・興味のあるものに触れてしまい、誤って破損したりけがをしたりする可能性がある。
→部屋の花、額、陶器の湯飲みなどを撤去してもらうよう、事前に宿泊先に依頼しておく。
- ・夜尿対策が必要である。
→ベッドや布団に防水シートを用意する。

②参考となるウェブサイト【(2) 宿泊・(3) 食事に共通】

- ・国土交通省 観光庁
『宿泊施設におけるバリアフリー情報発信のためのマニュアル～実践に向けた手引き～』
<https://www.mlit.go.jp/common/001250789.pdf>
- 『高齢の方・障害のある方などをお迎えするための接遇マニュアル』
宿泊施設編 <https://www.mlit.go.jp/common/001226565.pdf>
旅行業編 <https://www.mlit.go.jp/common/001226566.pdf>
- ・日本バリアフリー観光推進機構『全国バリアフリー旅行情報』 <http://barifuri.jp/portal/>

(3) 食事

①特別支援学校ならではの困難さと、実際に行われた対応例

- ・車いすを利用している児童生徒がいる。
→椅子席を利用し、事前にテーブルの高さを確認しておく。
- ・にぎやかな場所を苦手とする児童生徒がいる。自分たちのペースでゆったりとした食事が望まれる。
→個室を利用する。
- ・食事に対してこだわりがある児童生徒がいる。(見通しがもてると安心できる。)
→メニューを選択できるようにする。
→メニューの写真を事前に入手し、児童生徒に見せておく。
- ・二次調理を必要とすることがある。
→二次調理の内容を確認し、手配しておく。(一人一人の状況に対応した刻み方、ミキサーの

かけ方など)

- ・持参した道具で、二次調理の対応する場合がある。
→二次調理に必要な道具や食器の洗浄を、事前に依頼しておく。

(4) 買い物

- ①特別支援学校ならではの困難さと、実際に行われた対応例
 - ・混雑した場所を苦手とする児童生徒がいる。
→広いスペースのお店を利用する。
 - ・商品の選択に時間がかかる。
→買い物の計画を立てられるように、事前に商品の写真や価格のリストを入手しておく。
 - ・できるだけ児童生徒自身の力で支払えるようにしたいが、代金の支払いに時間がかかる。
→児童生徒のペースに合わせたやりとりや、専用レジの設定を事前に依頼しておく。
 - ・時間が足りなかったり見つけれなかったりして、希望する商品を買損ねてしまうことがある。
→買えなかった物を買直せるように、買い物ができる場所を複数確保しておく。
- ②参考となるウェブサイト
 - ・国土交通省 観光庁
『高齢の方・障害のある方などをお迎えするための接客マニュアル』
観光地域編 <https://www.mlit.go.jp/common/001226567.pdf>

(5) 見学・体験

- ①特別支援学校ならではの困難さと、実際に行われた対応例
 - ・視覚障害のある児童生徒がいる。
→できるだけ、触ることができるような活動を設定する。
→触察地図や点字ガイドブックがあれば、事前に手配しておく。
 - ・聴覚障害のある児童生徒がいる。
→手話通訳を手配しておく。
→音声だけでなく映像による紹介を、事前に依頼しておく。
 - ・テーマパークで、長時間アトラクションを待つことができない児童生徒がいる。
→ゲストアシスタントカード、ゲストサポートパスなどの発行を手配しておく。
 - ・急な体調不良に備える必要がある。
→救護室や休憩場所を確保しておく。
- ②参考となるウェブサイト
 - ・東京ディズニーリゾート
『バリアフリー』 <https://www.tokyodisneyresort.jp/tdr/bfree.html>
 - ・東京スカイツリー
『ユニバーサルサービスガイド』
http://www.tokyo-skytree.jp/floor/pdf/universal_service_guide.pdf
 - ・ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
『バリアフリーガイド』 https://www.usj.co.jp/serviceguide/barrier_free/

2020年には東京パラリンピックが開催される予定であったことも契機となり、障害のある人へ提供されるサービスは広がりつつある。交通機関やテーマパークでは、サービスの内容がウェブサイトでも発信されている。新幹線の車いす対応座席の予約や多目的室の利用については、JR東海「お身体の不自由なお客様へ」やJR西日本「おからだの不自由なお客様へ」に掲載されている。ただし、ウェブサイトの情報は随時更新される点に気を付けたい。例えば、TDRでは「ゲストアシスタントカード」は「ディスアビリティアクセスサービスならびに合流利用サービス」とサービス内容が変更されており、USJでは2019年5月15日から「ゲストサポート・パス」の発行基準が改訂されている。前年度にならって修学旅行を計画するのではなく、最新の情報を入手することを心がけたい。

障害のある人への対応への多くは身体障害を対象とした「バリアフリー」であるが、日本航空(JAL)と全日本空輸(ANA)は、知的障害・発達障害のある人向けのサービスも提供している。JALの「スカイちゃれんじ」、ANAの「そらばすブック」「そらばすビデオ(動画)」は、いずれも空港での手続き・保安検査・機内での過ごし方など、搭乗から降機までの流れが写真付きで分かりやすく解説されている。航空機の利用が初めてだったり不安があったりする特別支援学校の生徒にとって、事前学習の教材としての活用が期待できる。

これらの情報はトップページから直接リンクが貼られていることも多く、障害のある人が情報を入力しやすい工夫が見られる。一方で、ウェブサイトに掲載される情報は一般的な内容にならざるを得ない。相談窓口の電話番号なども掲載されているので、一人一人に合わせた対応については、直接連絡を取って具体的に相談することが必要であろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁	4. 巻 第19号
2. 論文標題 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（3） - 特別支援学校ならではの困難さとその対応 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁	4. 巻 第18号
2. 論文標題 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（2） - 修学旅行中に起こった予期せぬトラブルとその対応 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁	4. 巻 第17号
2. 論文標題 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（1） - 岐阜県の特別支援学校を対象とした調査から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 151-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁
2. 発表標題 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（3） - 特別支援学校ならではの困難さとその対応 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本和久・山内達仁
2. 発表標題 産学連携のユニバーサルツーリズム - 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援(2) -
3. 学会等名 第8回バリアフリー観光推進全国フォーラムかごしま大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁
2. 発表標題 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援(2) - 修学旅行中に起こった予期せぬトラブルとその対応 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本和久・山内達仁
2. 発表標題 産学連携のユニバーサルツーリズム - 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援 -
3. 学会等名 第7回バリアフリー観光推進全国フォーラムいしかわ大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本和久・山内達仁
2. 発表標題 産学連携のユニバーサルツーリズム - 障害のある人が安心して旅行に出かけられるように -
3. 学会等名 自閉症カンファレンスNIPPON2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本和久・安田和夫
2. 発表標題 病弱特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援 - 岐阜県の特別支援学校を対象とした調査結果 -
3. 学会等名 日本育療学会第21回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁
2. 発表標題 特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援(1) - 岐阜県の特別支援学校を対象とした調査から -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安田 和夫 (YASUDA Kazuo) (50760758)	岐阜聖徳学園大学・教育学部・教授 (33704)	
研究分担者	櫻井 康博 (SAKURAI Yasuhiro) (40741088)	埼玉大学・教育学部・教授 (12401)	